

児童生徒とともに考え、  
楽しむ授業に向けて

# 道徳科授業力向上 手引書



©2010熊本県くまモン

授業づくりのRPDCA



©2010熊本県くまモン

令和5年3月 熊本県教育委員会

平成27年3月に小学校及び中学校の学習指導要領等が改正され、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と位置付けられました。各学校においては、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育の目標に向け、様々な工夫を行いつつ道徳科の授業に取り組まれていると思います。しかしながらその一方で、「道徳科の授業づくりは難しい。」「どうやって発問をつくったらよいのだろうか。」との声も多く聞かれます。

そこで、県教育委員会では、「考え、議論する道徳」の実現に向けて、教員一人一人の授業力向上と校内研修等の充実に資するため本手引書を作成しました。

本手引書では、道徳科授業づくりの基本的な考え方や参考となる学習活動例等を紹介しています。この手引書で紹介する学習活動例等はどれも一つの工夫の例であり、特定の指導方法を「型」として取り入れることを目指すものではありません。各学校においては、創意工夫を生かした授業づくりを進めるために、指導方法を工夫する上で参考にしたり、校内研修用の資料として使用したりするなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じて御活用ください。各学校で行われる道徳科の授業が、児童生徒とともに考え、議論し、楽しむ授業となることを期待しています。

熊本県教育委員会

## Contents

<b>道徳科の目標</b>	<b>P1</b>
 <b>内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う</b>	<b>P2～P3</b>
 <b>教材を吟味し授業のねらいと展開を考える</b>	<b>P4～P5</b>
 <b>児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える</b>	<b>P6～P11</b>
	導入の工夫例 . . . . . P6 書く活動の工夫例 . . . . . P7 表現活動の工夫例 . . . . . P8 話合いの工夫例 . . . . . P9 板書を生かす工夫例 . . . . . P10 ICTの活用例 . . . . . P11
 <b>道徳科の評価の進め方</b>	<b>P12～P15</b>
<b>※本時の学習例</b>	<b>P16～P17</b>
 <b>授業を充実させるために</b>	<b>P18</b>

## 道徳科の目標

### 道徳科の目標

（「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」）

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（特別の教科 道徳編）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説（特別の教科 道徳編）



道徳性を養うことが道徳科の目標です。

道徳科の目標には、どのような学習活動をするのが示されています。

道徳科の目標に示されている学習活動は・・・

- ①道徳的諸価値について理解する
- ②自己を見つめる
- ③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
- ④自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

左に示した4つの学習活動を通して道徳性を育成します。



※道徳的価値の理解については、以下の3つが学習指導要領解説に示されています。

- 価値理解 （内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること）
- 人間理解 （道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること）
- 他者理解 （道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ为前提として理解すること）

目標は分かったけれども、道徳科の授業づくりは、何から準備を始めたらいいのだろう・・・



内容項目  
（道徳的価値）

児童生徒  
の実態

教材の活用

指導の意図が明確になっていく

授業構想の時には、年間指導計画で内容項目、教材を確認して授業に臨むだけでなく、児童生徒の実態をしっかり捉えて臨むことが大切です。

- ①内容項目や道徳的価値の確認
- ②指導の要点等をもとにした児童生徒の実態把握
- ③教材の活用

この順番で授業づくりを行うことで、道徳科の指導のねらいが明確になります。これが「こんなことを考えさせたい、こんなことに気付いてほしい・・・」という教師の指導の明確な意図になります。



上に示した道徳科のお団子は一番上の内容項目から食べていきましょう。

内容項目→児童生徒の実態→教材の活用、この手順を大切に道徳科の授業づくりを行いましょう。

小学校1年生の教材で、実際の授業づくりを紹介します。

### 教材の内容

おおかみは、ある朝、山の中にある長くて細い一本橋の真ん中でうさぎに出会った。おおかみは、うさぎを追い返し、大いばりで橋を渡ったことが面白くなり、それから用もないのに小さな動物たちを追い返すようになった。ところが自分よりも体が大きいくまに出会ったおおかみは、自分からこそそと戻ろうとする。しかし、くまは優しくおおかみを渡らせてくれる。おおかみは、自分に優しく接してくれたくまの姿から、温かく接することの大切さに気づき自分がこれまで意地悪をした動物に優しく接するようになる。

主題名:あたたかい心で親切に (B-6) 親切, 思いやり  
教材名:「はしの上のおかみ」 出典:私たちの道徳 小学校 活用のための指導資料(文部科学省)

内容項目は・・・  
「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」「身近にいる人に温かい心で接すること」「親切にすること」という道徳的価値が含まれているな。



指導の要点を読むと、「幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて」・・・とあるけれど、子供たちは、これまでどのような人たちとどのような関わりをしてきているだろうか・・・



入学して以来、6年生をはじめたくさんのお兄さん、お姉さんたちに親切にしてもらってきたな。生活科で保育園の子供たちと交流した時、自分たちの遊びに夢中になっていたな。



## 授業づくりの例

小学校学習指導要領解説  
特別の教科 道徳編 P40～41

第1学年及び第2学年の内容項目

### 内容項目

7 親切, 思いやり

〔第1学年及び第2学年〕  
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕  
相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕  
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

(中学校)  
[思いやり, 感謝]  
思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

### 指導の要点

■ 第1学年及び第2学年

この段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて、温かい気持ちで接することのよさを考えさせたいな。

POINT POINT

学習指導要領解説の内容項目のページは、見開き2ページで右のような構成で示されています。指導の要点には、指導の際大切にしたいことが、発達段階ごとに記載されています。

## 内容項目をもとに 児童生徒の実態把握を行う

### 授業づくりの準備

1 【道徳的価値を確認する】

学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)の内容項目のページで道徳的価値を確認しましょう。

2 【内容項目の概要や指導の要点を確認する】

ねらいとする道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、内容項目の概要や指導の要点を読みましょう。

3 【児童生徒の実態をもとに本時で考えさせたいことを決める】

指導の要点を確認しながら、ねらいとする道徳的価値についてこれまでどのような指導を行ってきたか、その結果としての児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいことを決めましょう。

Plan P4へ



Plan

# 教材を吟味し 授業のねらいと展開を考える

## 授業づくりの手順

教材の活用

### 1 【教材を吟味する】

道徳科の教材は、単に読んで話の内容を理解するものではなく、道徳科の授業のねらいを達成するために活用されるものです。ねらいを達成するための指導の意図、児童生徒の実態をもとに、教材のどの場面を取り上げて話し合うのかを考えます。



★Research で決めた考えさせたい部分と重なる場面を捉えます。  
価値理解、人間理解、他者理解を深められる場面はどこかという視点をもちながら捉えていくとよいでしょう。  
★児童生徒の実態を思い浮かべながら、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにしていきます。

### 2 【本時のねらいを決める】

教材吟味で話し合いたいと考えた場面がねらいにつながります。例えば右のように**道徳性を構成する諸様相**を入れたねらいの表記が考えられます。

( 学習(活動) )を通して  
( 判断力・心情・実践意欲・態度 )を育てる

※**道徳性を構成する諸様相** (道徳的判断力, 道徳的心情, 道徳の実践意欲と態度)

### 3 【中心的な発問から考える】

教材文の考えさせたい部分(ねらいの学習活動の部分)を中心的な発問にするとよいでしょう。



1時間の授業の展開を考える際は、「導入」からではなく「展開」の中心的な発問から考えます。

### 4 【中心的な発問を生かすためにその前後の発問を考える】

### 5 【導入, 終末を考える】

Do P6へ

## 授業づくりの例

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて温かい気持ちで接することのよさを考えさせたい。

- (教材の主な場面)
- ① おおかみがうさぎを追い返した場面
  - ② おおかみが自分よりも体の大きいくまに出会った場面
  - ③ くまがおおかみに優しく接した場面
  - ④ おおかみが意地悪をしたうさぎに優しく接した場面

自分より幼い人の気持ちを考えるにはどこがいいだろう?

温かい気持ちで接することのよさを考えるにはどの場面がいいだろう?

④の自分より小さいうさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげている場面を使ったらどうだろう?

## 本時の学習例

### (1) ねらい

うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみの気持ちを考えるを通して、自分より幼い人のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。

### (2) 展開

過程	学習活動 (◇予想される児童の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。 ○今まで親切にされてうれしかったことはありますか。 ◇転んだとき、6年生が助けてくれた。 ◇一人できるとき友達がなわとびに誘ってくれた。 親切のよさについて考えよう</p>
展開	<p>2 教材を読み、おおかみの気持ちについて考え、話し合う。 ○くまから抱き上げられ、そっとおしてもらった時、おおかみはどのようなことを思ったのでしょうか。 ◇なんでもおしてくれたのだから。 ◇くまさん、優しいな。 ◇優しくしてくれてうれしいな。</p> <p>◎うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみは、どのようなことを思ったのでしょうか。</p>
	<p>中心的な発問</p> <p>◇うさぎはうれしかったかなあ。 ◇心がぼかぼかしてきた。 ◇気持ちがいいなあ。 ○くまから抱き上げられたおおかみも、うさぎを抱き上げたおおかみもどちらも笑顔ですね。どちらの笑顔が好きですか。そのわけは? ◇抱き上げられた時の笑顔 ・優しくするといいなということに気付いた笑顔だから。 →優しさは広がるね。 ・優しくされるとうれしいから。 ◇抱き上げた時の笑顔 ・自分が優しくして相手が喜んでくれるのもっとうれしいから。 ・優しくできたことがうれしいから。</p>
終末	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。 (1) 思いやりに関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。 (2) 全体で振り返りを共有する。 4 6年生のインタビュー動画を見て、授業を振り返る。</p>

ねらいを考える

ねらいには、中心となる学習活動と育てたい道徳性を構成する諸様相を入れるから…

中心的な発問を考える

くまの優しさに触れて、うさぎに親切にしたときのおおかみの気持ちは…

中心的な発問の前後の発問を考える

中心的な発問を考えるためには、その前にどんな発問が必要かなあ。

中心的な発問を深めるためには、その後どんな発問が必要だろうか…



Do

# 児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

## 導入の工夫例① 写真提示

**よさ** 児童生徒の興味関心を引きつけ、本時で学習する道徳的価値への方向付けとなり、問題意識をもたせることができます。

みなさんが住んでいるふるさとのいいところって、どんなところかな。

ふるさとのよさって、これだけだろうか。

場所や文化のよさだけではなく、人々のよさや伝統に気付かせることも考えられます。



他教科等での活動を思い出し、道徳的価値と生活をつないでいきます。



年間指導計画（別葉）を生かして、他教科等と関連付けた授業づくりを行います。

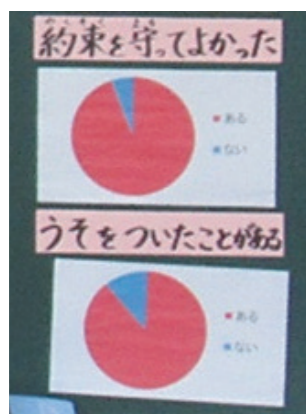
主題名:引き継ぎたい 大切な町 (C-17) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度  
教材名:「こわれたおじいちゃんの家」 出典:平成28年熊本地震関連教材つなぐ〜熊本  
の明日へ〜5・6年 (熊本県教育委員会)



- 写真提示は、視覚的に短時間で児童生徒に問題意識をもたせることができます。学びの方向性が明確になり、主体的な学びにもつながります。
- 体験活動場面での写真を提示することで、自分事として捉えることができ、学習意欲の向上にもつながります。

## 導入の工夫例② アンケートの活用

**よさ** 児童生徒の実態を具体的に示すことで、学習内容と自分をつなぎ、自分事として考える動機付けとなります。



「まじめに 真心をもて 思いやり 真剣 正直」

道徳的価値に関する問いを投げかけます。

- 「誠実な生き方とは？」
- ・真面目に生きること
  - ・真心をもって接すること
  - ・真剣に生きること
  - ・正直であること

アンケート結果を示します。アンケート内容は、道徳的価値に関わる経験や人間の弱さについて触れた内容等です。

「誠実でありたいけれど、できないこともある。誠実に生きるためには何が大切なのだろうか。」というように問題意識をもたせていくこともできます。

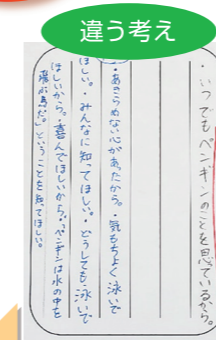
主題名:誠実に明るい心で (A-2) 正直,誠実 教材名:「手品師」 出典:新しい道徳6 (東京書籍)



- アンケート結果から実態把握ができ、児童生徒の課題意識を大切に授業展開を組み立てることができます。
- 導入でのアンケート結果と学習後の意識とを比べることで、道徳的価値の広がりや深まりを見取ることができます。

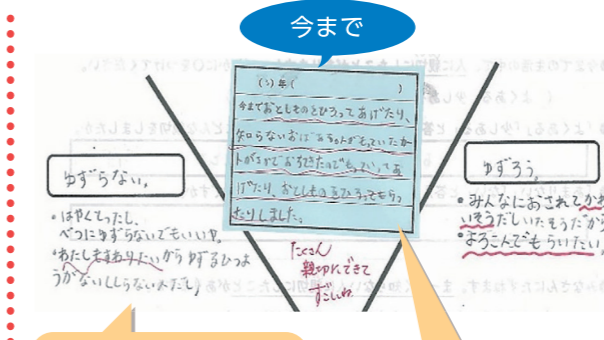
## 書く活動の工夫例① 考えを深めるための視点の提示

**よさ** 視点を提示することで、自分の考えを深め、整理しやすくなります。



自分では気付かなかった友達の考えをメモします。

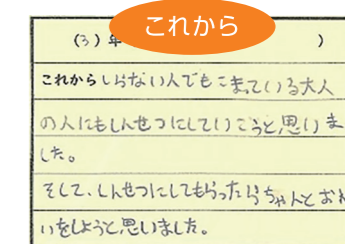
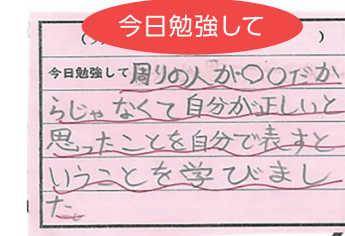
主題名:真理を求めて (A-6) 真理の探究 教材名:「ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ」 出典:新しい道徳5 (東京書籍)



中心的な発問での児童の考えを記述します。

振り返りで記述したカードを貼ります。

主題名:相手を思いやる心 (B-6) 親切, 思いやり 教材名:「バスの中で」 出典:小学どうとく生きる力3 (日本文教出版)



- あらかじめメモの視点を提示し、友達の考えを目的意識をもって聞いたり書いたりすることで更に考えが深まります。
- 振り返りの際、「今まで」「今日勉強して」「これから」等のカードから、児童生徒が書き残したいものを選択できるようにすると、書く意欲が高まります。

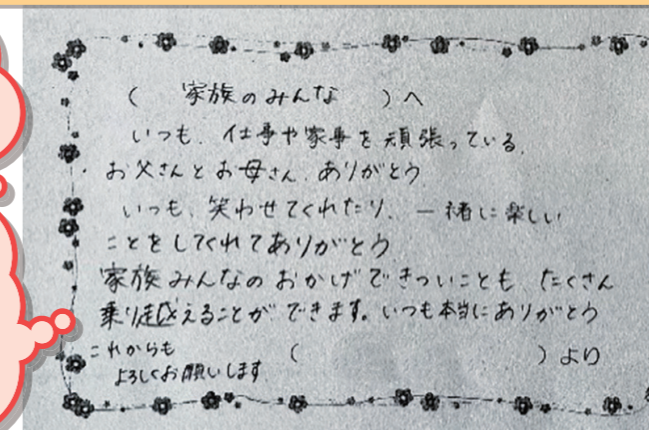
## 書く活動の工夫例② 他者への発信（終末）

**よさ** 授業の中で考えたことを振り返り、自己を見つめ、周りとの関わりに気付くことができます。

命の尊さについて終末でもう一度考え、自分の命を大切にしてくれている人にメッセージを書くことで、自己理解を深め、実践をしようとする気持ちを高めることができます。

生まれた時のこと聞いてみようかな。

家族、親戚、友達、地域の方々、先生方など、多くの方と関わって、今のわたしがいる。



あの時、どんな思いだったのかな。

主題名:いのちを考える (D-19) 生命の尊さ 教材名:「妹に」 出典:新しい道徳2 (中学校) (東京書籍)



- 家庭や地域の人々等、他者へ発信をすることで、道徳科での学びを広げたり深めたりすることができます。
- 道徳科のノートを持ち帰り、学んだことを保護者と話すことで、さらに考えを深めることができます。
- 家族に関する内容を取扱う際は、特に家庭環境に配慮する必要があります。

## 表現活動の工夫例① 役割演技

**よさ** 登場人物の思いを即興的に演じることで、自分事として捉えやすくなり道徳的価値への理解を深めることができます。

ぼくたちで、もっとじょうぶなぶらんこを作ろう。

教師対児童での役割演技から児童対児童の役割演技へ

小道具の活用



役割カード

ベル

①そうすると、くまさんもいっしょにのれるよ。



②おさるさん、ありがとう。さっきはごめんね。

③いいよ。これからはみんなで楽しくあそぼうね。

それぞれの立場での気持ちを即興的に表現します。表情や声のトーンなどからも、お互いの気持ちを感じ取ることができます。

主題名:友だちとなかよく (B-9) 友情, 信頼 教材名:「ぶらんこ」 出典:どうとく2 (光村図書)



- 即興的に演技をすることは、自分の感じ方や考え方を語るということです。児童生徒の発言に問い返しをしたり、参観している児童生徒の思いを聞いたりすると、考えは更に深まります。
- お面や役割カードなどの小道具を活用したり、場面に切り替わる時に、ベルや「よーい アクション」などの合図を送ったりすることで、役になりきる手助けとなります。

## 表現活動の工夫例② 動作化

**よさ** 教材の登場人物の動きや言葉を真似することで、登場人物の心情について実感をもって考え、理解を深めることにつながります。

たくさんのどんぐりがあるよ！  
たくさんひろいたいな。



がっこうのかえり道だけど、より道してもいいや。

「より道してはいけない。」と分かっているけど、つい楽しさを優先してどんぐりを拾ってしまう弱い心はだれにでもあります。道徳的価値のよさや実現の難しさ等を、実感をもって感じ取る活動から、価値理解へとつなげていきます。

主題名:しょうじきな ところで (A-2) 正直, 誠実 教材名:「どんぐり」 出典:あたらしいどうとく1 (東京書籍)



- 登場人物になりきって表現するので、人物の思いを自分事として捉えることができます。体験的な活動を好む低学年には、体全体を使って考える活動は特に効果的です。
- 動作化の前に、挿絵や関連する画像等を見せることで、より登場人物の気持ちになって考えることができます。

## 話し合いの工夫例① ペアやグループでの交流

**よさ** 全員が自分の考えや思いを伝え、友達の話聞いていろいろな考えに出会うことができます。全体で発表する意欲付けにもなります。

「私も〇〇さんと同じです。」

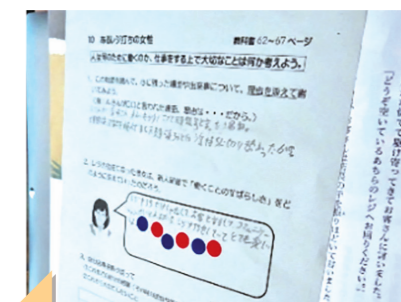
「私も〇〇さんと同じ意見ですが、□□の部分が少し違って・・・。」

「私も〇〇したことがあります。」



ハート図→

左に示したような言葉を使って話し合いを行うことも効果的です。



ワークシートを読み合っ、同じ意見には●、気が付かなかった意見には●のシールを付ける方法も効果的です。

主題名:みんなのためにはたらく (C-12) 勤労, 公共の精神 教材名:「ぼくのしごと」 出典:あたらしいどうとく1 (東京書籍)

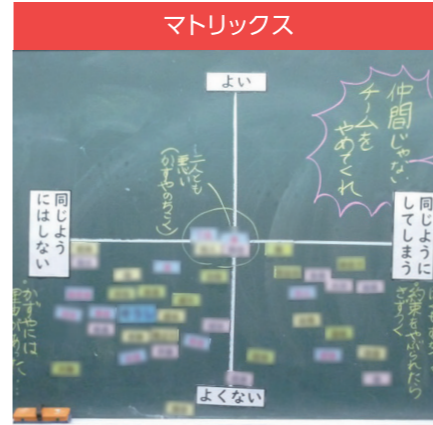


- 話すことが苦手な児童生徒も少人数の中では、思いを伝えやすくなります。
- 聞き手の指導 (うなずきや言葉を返すなど) をすることで、話しやすい雰囲気作りができます。

## 話し合いの工夫例② ツールを使った話し合い

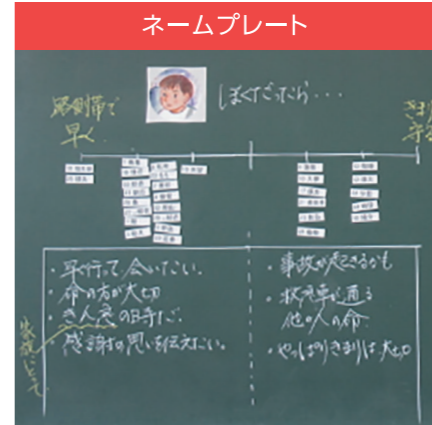
**よさ** 児童生徒相互の考えを明確にでき、多様な考えに出会い、認め合うことにつながります。

マトリックス



主題名:相手のことを考えて (B-10) 相互理解, 寛容 教材名:「ちこく」 出典:小学道徳生きる力4 (日本文教出版)

ネームプレート



主題名:法やきまりを守って (C-12) 規則の尊重 教材名:「ここを走れば」 出典:道徳6 (光村図書)

心のものさし



心情円盤



表しにくい心の中を「心のものさし」や「心情円盤」で表現できます。

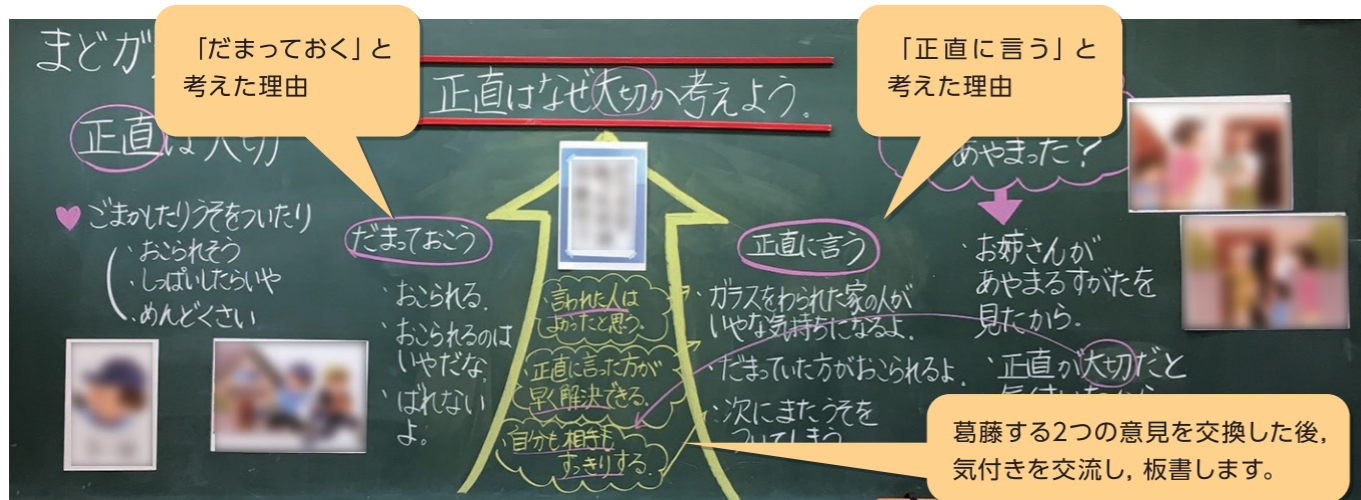
自分の考えに合った立ち位置を「ネームカード」で示します。その後、それぞれの立場で全体交流をします。



- 自分の立場や気持ちを思考ツールを使って表出させた後、例に示したような問い返しをすると更に児童生徒の考えが深まります。(例:どうしてそう思ったの?経験したことあった?みんなはどう思うの?)

### 板書を生かす工夫例① 葛藤パターン（矢印の活用）

**よさ** 登場人物の葛藤や役割演技等を通じた気づきを分割して板書すると、共通点や相違点が視覚的に分かりやすくなります。



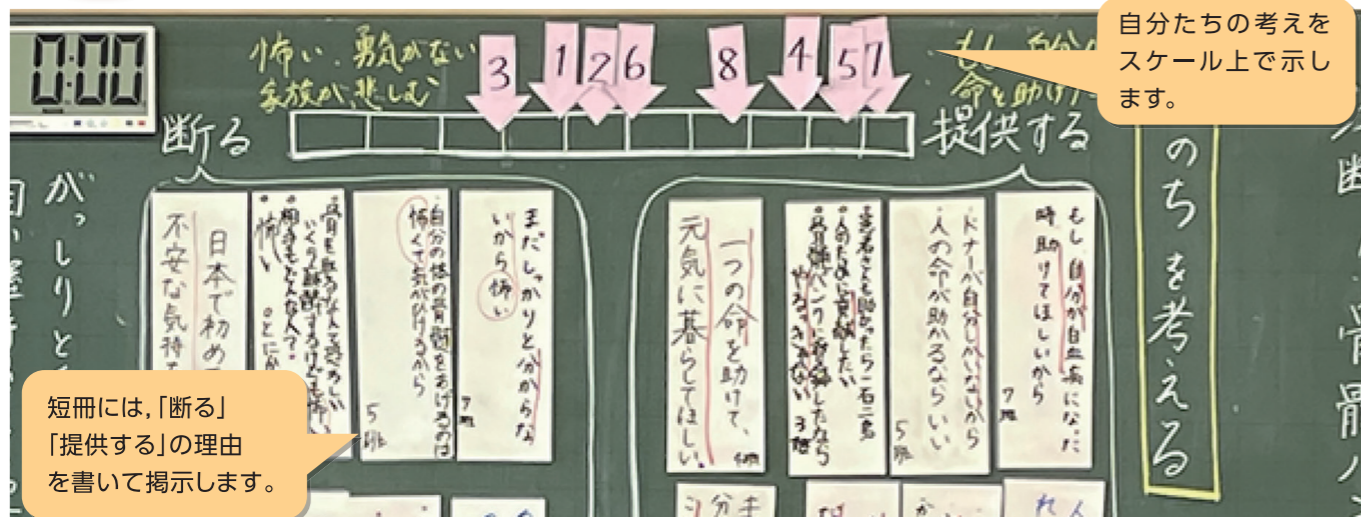
主題名:自分に正直に (A-2) 正直, 誠実 教材名:「まどガラスと魚」 出典:小学どうとく生きる力3 (日本文教出版)



- 2つの対立した意見を話し合った後、気づきを矢印の中を書くことで、自分たちの気づきが「本時のめあて」に向かっていることを意識させることができます。
- 一番考えさせたいところを板書の中心にもっていくと、インパクトのある板書になります。「縦書き」か「横書き」かは、効果を考えて授業者が決めます。

### 板書を生かす工夫例② スケールの活用

**よさ** 自分の考えを明確にしたり、他者との考えの違いを比較したりすることができます。



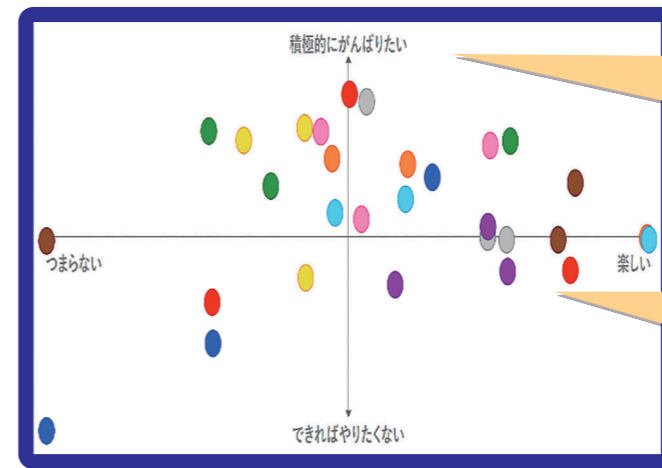
主題名:自他の生命について考える (D-19) 生命の尊さ 教材名:「決断! 骨髄バンク移植第一号」 出典:新しい道徳1 (中学校) (東京書籍)



- スケールは微妙な度合いを表現できるよさがあります。それぞれの考えが一目で分かり、比較することができます。示した後、理由を話し合うことが大切です。
- 学習前後の変化が分かりやすいのもスケールの特長です。全体で話し合った後に再度、もう1本のスケールを作り、考えの変化を比較することもできます。

### ICTの活用例① 思考ツールの活用

**よさ** 自分の考えとともに、他者の多様な考えを学級全体で共有することができます。



道徳的な問題に対する意識の方向付けを図るために、「清掃」に対する自分の今の思いや考えを示しています。

自分の立場を明らかにし、他者と考えを比較することを通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができます。

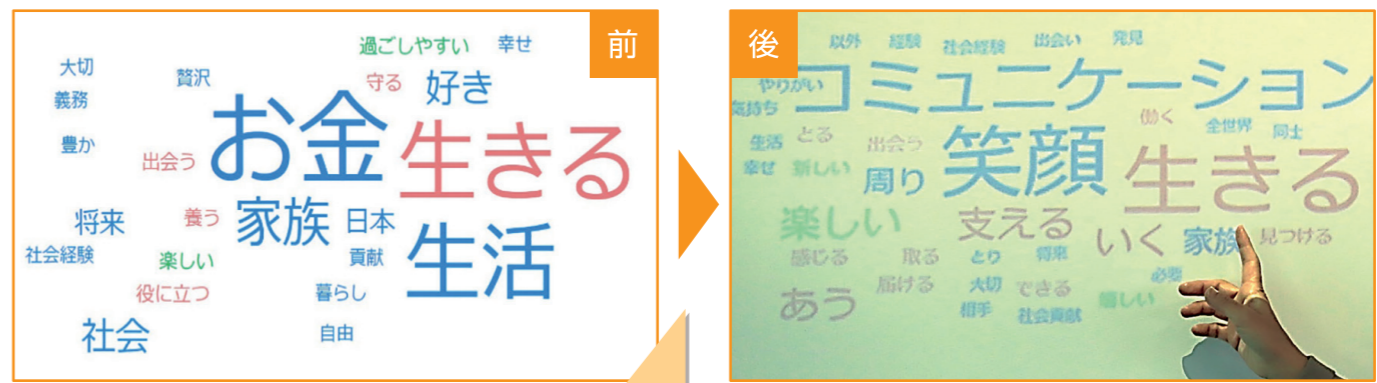
主題名:心がこもった仕事 (C-13) 勤労 教材名:「私は清掃のプロになる」 出典:中学道徳あすを生きる1 (日本文教出版)



- 自身の端末に入力するだけで、自分の思いや考えを短い時間で可視化したり、他者の多様な考えに触れたりすることができます。
- 「心のものさし」「ハート図」「心情円盤」等の教具 (P9) は、デジタルの思考ツールとしても有効です。

### ICTの活用例② 一人一台端末の効果的活用

**よさ** 児童生徒の表れにくい心の中を可視化したり共有化したりすることができます。



授業前と後の児童生徒の考えの傾向の比較から、授業での学びを共有することができます。

主題名:勤労の尊さ (C-13) 勤労 教材名:「あるレジ打ちの女性」 出典:中学道徳あすを生きる3 (日本文教出版)



- 一人一台端末は、アイデア次第で様々な活用方法を工夫することができ、児童生徒の学習意欲を高め情報活用能力を育むことが期待できます。
- ねらいとする道徳的価値に迫るために効果的かどうかという視点を大切にして、指導の明確な意図をもって活用することが重要です。

Check P12へ

# 道徳科の評価の進め方

何を評価するのでしょうか。

道徳科の授業は、道徳性の育成を目指して行います。しかし、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。  
道徳科では、児童生徒の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を評価します。

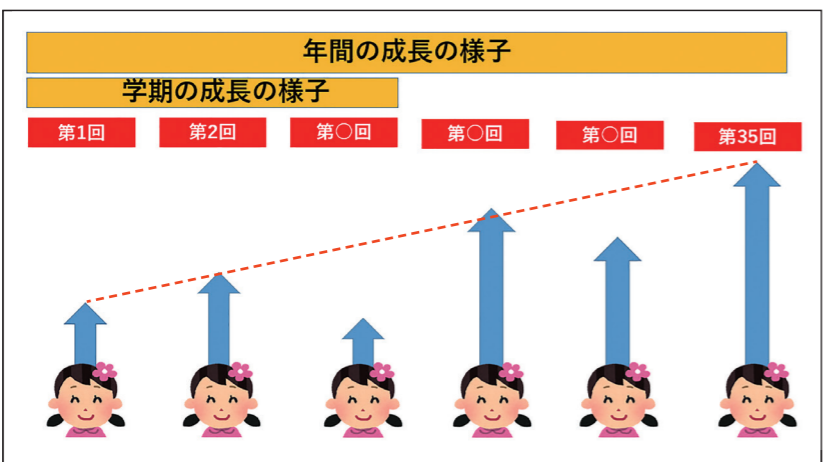
学習状況とは何ですか。

道徳科の目標に示されている学習活動で見られる児童生徒の発言や記述、学習活動をしている児童生徒の姿のことで。

- 道徳科の目標に示されている学習活動は・・・
- ① 道徳的諸価値について理解する
  - ② 自己を見つめる
  - ③ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
  - ④ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

つまり左の学習活動で見られる児童生徒の学びの姿に着目して評価を行います。

道徳性に係る成長の様子とは何ですか。



1単位時間の授業だけでなく、1時間、1時間の道徳科の目標に示された学習活動（学習状況）を積み重ねた結果としての学習状況の成長の様子です。**大きくりなまとまり**を踏まえた個人内評価を行うことが求められます。

**POINT POINT** 「大きくりなまとまり」とは？ 年間や学期といった一定の期間のことです。

学習状況を把握するためにはどうしたらよいですか。

まずは、道徳科の目標に示されている学習活動を行うことが必要です。そして、児童生徒の学びの姿を把握していきます。学習指導要領解説では次の2点で学習状況を把握していくことが示されています。

## 学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」に示されている視点の例

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- (視点の例)
- ① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
  - ② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
  - ③ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を（広い視野から）多面的・多角的に考えようとしている

- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
- (視点の例)
- ④ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
  - ⑤ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している
  - ⑥ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
  - ⑦ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」に示されている視点の例を授業ではどのように評価していくのだろう。

## 実際の授業での評価例

**小学校の例** 主題名：正しいと思うことは自信をもって（A-1）善悪の判断、自立、自由と責任  
教材名：「二つの声」 出典：新しい道徳3（東京書籍）

ねらい	ねらい 正直に言おうか、だまっておこうか迷う正二の気持ちを考えることを通して、正しいと判断したことは自信をもって行おうとする <b>心情を育てる。</b>	← 学習活動（学習状況）を評価します。
中心的な発問	中心的な発問 ◎二つの声を聞きながら、正二君はどんなことを考えただろう。	← 心情が育ったかどうかは評価しません。
評価の視点	評価の視点 【評価の視点1】③ 二つの声に葛藤する正二の思いについて、「正しいことをする」という視点から多面的、多角的に考えようとしている。(方法：発言・ワークシート) 【評価の視点2】⑤ 「正しいことをする」という視点から自分を見つめ、これまでの自分、これからの自分について考えようとしている。(方法：発言・ワークシート)	← ねらいの中の <b>学習活動</b> に関する部分を視点にします。 ← 学習指導要領解説で示された評価の視点③、⑤を本教材に基づいて具体的に表すと・・・

**重要!** 本時の授業は、心情（道徳性）の育成を目指して行いますが、児童の道徳的**心情**が育ったかどうかを評価するものではありません。

### 児童の記述例

<【評価の視点1】③で捉えた児童の記述例>  
学校に戻って自分がしたと言わないと、二郎君のせいになる。でも、自分がしたと言ったら、先生に怒られるだろうなあ。怒られるのは嫌だな。言わなかったらずっと心に残ってもやもやするから、やっぱり自分がしたと言おう。

<【評価の視点2】⑤で捉えた児童の記述例>  
今までだめだと思ったことを、友達もやっているから少しぐらいならしてもいいかなって思っていた。でも心の中がずっともやもやしていたな。正しいことをしていくともやもやしない。だから、これからは、正しいことをしていきたいと思った。



## 中学校の例

主題名：勤労の尊さ（C-13）勤労 教材名：「あるレジ打ちの女性」  
出典：中学道徳あすを生きる3（日本文教出版）

ねらい	働くことの素晴らしさを見いだした主人公の変容について話し合う活動を通して、仕事をする事の喜びについて考え、より充実した生き方を実現していこうとする態度を育てる。	学習活動(学習状況)を評価します。
中心的な発問	◎人は何のために働くのか、仕事をする上で大切なことは何かを考えよう。	態度が育ったかどうかは評価しません。
評価の視点	【評価の視点1】① 自分の考え次第で仕事が楽しくなることに気付いた主人公の変容について、考えたり話し合ったりしている。(方法：発言・ワークシート) 【評価の視点2】④ 働くことが個人の幸福の追求とともに社会への貢献になることについて、自分の将来の姿と重ね合わせながら書いたり伝え合ったりしている。(方法：発言・ワークシート)	ねらいの中の学習活動に関係する部分を視点にします。 学習指導要領解説で示された評価の視点①、④を本教材に基づいて具体的に表すと・・・

※評価は必ず2つ設定するわけではありません。1つでも可です。

### 生徒の記述例

#### <【評価の視点1】①で捉えた生徒の記述例>

主人公の女性は、最初は働くことの喜びに気付くことができなかったけれど、お客さんとコミュニケーションをとることで働くことの喜びに気付くことができた。私も、自分のためだけでなく、他の人の喜びも大切にしながら働けるようになりたい。

#### <【評価の視点2】④で捉えた生徒の記述例>

働くことは自分のためだけでなく、他の人も幸せにするのだということに気付くことができた。私も将来、働くときには自分自身はもちろん、他の人を幸せにするような働き方ができるように自分の個性を生かしていきたい。

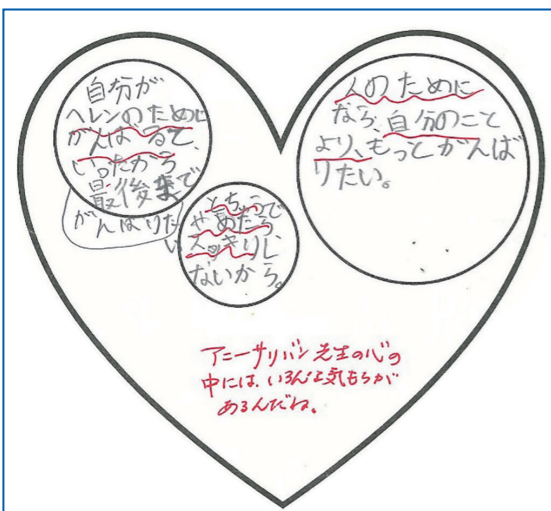


具体的な評価方法を教えてください。

## 評価方法の実践例

### ① ワークシートの工夫例

学習シート的一部分を「振り返りコーナー」とする方法もあります。終末では、今までの自分は「本時で学んだ心」がどれくらいあったのか、これからの自分の心はどれくらいになったのかをマークで示します。また、今までの自分のことや、これから大切にしたいことを記述します。



(児童のワークシート)  
(A-5) 希望と勇気、努力と強い意志

終末では、スケールにマークで振り返りを書かせます。

今：今までの自分  
こ：これからの自分

今までの自分を振り返って記述させます。右のシートを書いた児童は、自分の足りなかった面を見つけています。

これから何を大切にしていきたいか記述させます。本時の学びが生かされているか、評価することができます。

振り返りコーナー

(こ) 人に負けない心

今までの自分 サッカーで負けたら悔しいから頑張りたい。

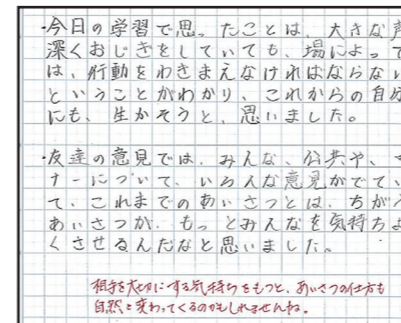
これからの自分 最後まで自分の力を出して頑張りたい。

## ② 振り返りの視点の提示例

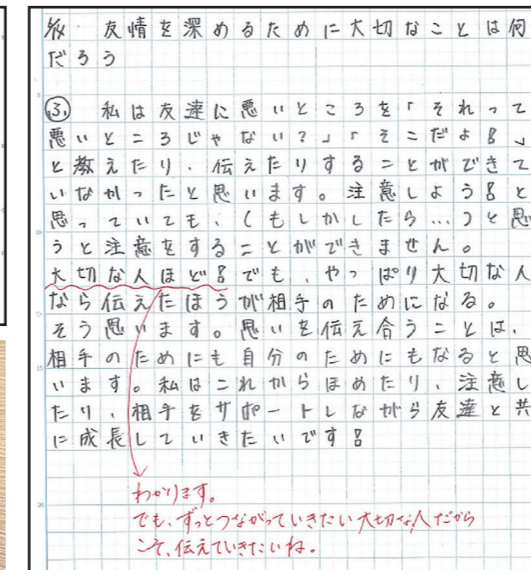
児童生徒が書いたノートやワークシートは、道徳科の学習状況や成長の様子を把握し評価に生かすことができます。毎時間の振り返りの項目を示すことで、児童生徒の自己を見つめる視点が明確になります。教師は、児童生徒の考えの傾向や変化などを捉えることができます。

【評価の視点の例】	【振り返り項目の例】
自分自身との関わり	これまでの自分の振り返り
多面的・多角的思考	友達の考えを聞いて気づいたこと
全体的な受け止め(価値理解)	今日の学習で感じたこと・考えたこと
自己の価値観(納得解)	自分がこれから大切にしたいこと

#### <学習後の感想> 礼儀 (B-9)



#### <学習後の感想> 友情, 信頼 (B-10)

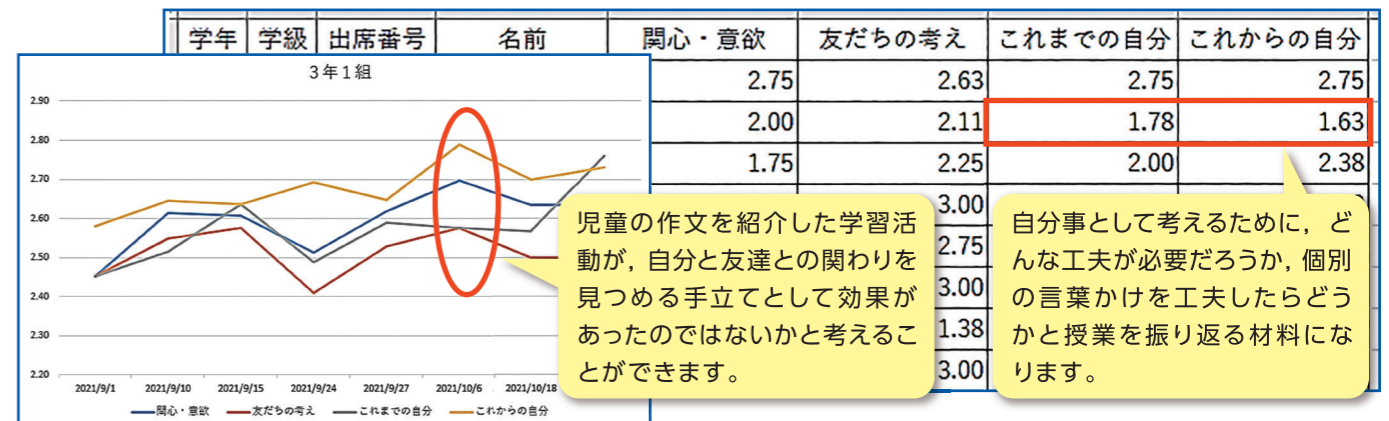


振り返りの視点の中で、自分が特に考えを深めたと思う内容を中心に綴っていきます。

記述することが苦手な児童生徒に対しては、表情やつぶやきなど他の形で表出する姿に着目することも重要です。

## ③ タブレット端末の活用～アンケート機能による児童生徒の学習状況の蓄積例

年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することも考えられます。尺度による自己評価をタブレット端末に保存していくことで、児童生徒の学習状況を見取り、成長の様子を積極的に認め励ます個人内評価に繋がります。また、指導の在り方を振り返り授業改善にも役立てることができます。



児童生徒の学びの様子を見取る上で、綴りでの振り返りと尺度による自己評価を組み合わせるとより効果的です。学校や児童生徒一人一人の状況によって評価方法を工夫することが大切です。また、教師が計画的に評価を行っていくことはもとより、ICTを活用するなど評価したことを記録に残していくための手立てを考えておくことが大切です。

## Action P18へ

## 本時の学習例 (小学校)

主題名：あたたかい心で親切に (B-6) 親切, 思いやり  
 教材名：「はしの上のおおかみ」 出典：わたしたちの道徳 1・2年 (文部科学省)

この授業では、自分より幼い人の気持ちを考えて温かい気持ちで接することのよさを考えさせたい。

(1) ねらい  
 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみの気持ちを考えることを通して、自分より幼い人のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動 (◇予想される児童の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>○今まで親切にされてうれしかったことはありますか。                  ◇転んだとき、6年生が助けてくれた。                  ◇一人できるとき友達になわとびに誘ってくれた。</p> <p style="text-align: center;"><b>親切のよさについて考えよう。</b></p>
展開	<p>2 教材を読み、おおかみの気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>○くまから抱き上げられ、そっとおしてもらった時、おおかみはどのようなことを思ったのでしょうか。</p> <p>◇なんでとおしてくれたのだろう。 <b>役割演技</b>                  ◇くまさん、優しいな。                  ◇優しくしてくれてうれしいな。</p> <p style="text-align: center;"><b>◎うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみは、どのようなことを思ったのでしょうか。</b></p> <p>◇うさぎはうれしかったかなあ。                  ◇心がぼかぼかしてきた。                  ◇気持ちがいいなあ。                  ◇くまに抱き上げられたおおかみも、うさぎを抱き上げたおおかみもどちらも笑顔ですね。どちらの笑顔が好きですか。そのわけは？</p> <p>◇抱き上げられた時の笑顔                  ・優しくするといいなということに気付いた笑顔だから。                  → 優しくさは広がるね。                  ・優しくされるとうれしいから。</p> <p>◇抱き上げた時の笑顔                  ・自分がやさしくて喜んでくれるととってもうれしいから。                  ・優しくできたことがうれしいから。</p>
	<p>3 自分自身を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>(1) 思いやりに関わる経験について、これまでの自分を振り返って書く。                  (2) 全体で振り返りを共有する。</p> <p>4 6年生のインタビュー動画を見て、授業を振り返る。</p>
終末	

### 授業づくりの手順

#### Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

#### Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

#### ねらいを考える

#### 中心的な発問を考える

#### 中心的な発問の前後の発問を考える

#### Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える

#### Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする

- 【評価の視点1】 うさぎを抱き上げ、橋をとおしてあげたおおかみの気持ちについて考えたり、話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点2】 自分より幼い人への関わりについて、これまでの自分を振り返ったりこれからのことを考えたりしている。(方法：発言・シート)

## 本時の学習例 (中学校)

主題名：社会の中の思いやり (B-6) 思いやり, 感謝  
 教材名：「バスと赤ちゃん」 出典：中学道徳あすを生きる1 (日本文教出版)

人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを考えさせたい

(1) ねらい  
 バスの中での出来事におけるお母さん、運転手、乗客それぞれの思いについて考えることを通して、人と人が互いを思いやる心の素晴らしさに気づき、他者に対する思いやりと感謝の心を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動 (◇予想される生徒の発言), ○主な発問, ◎中心的な発問
導入	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>○今までどんな思いやりのある行動をしましたか。                  ◇友達に順番をゆずった。                  ◇困っている下級生を助けた。</p> <p style="text-align: center;"><b>思いやり的心がある社会にするために、大切なことは何だろう。</b></p>
展開	<p>2 教材を読み、バスの中での出来事について考え、話し合う。</p> <p>○どの場面が心に残りましたか。                  ◇運転手さんの発言。理由は、降りようとしたお母さんを止めたから。                  ◇乗客のみんなが拍手したところ。</p> <p style="text-align: center;"><b>◎乗客の皆さんの拍手は、どんな拍手だったのだろう。</b></p> <p>◇何となくつられて拍手 (何があったのかな?)                  ◇運転手さんナイスの拍手 (若いお母さんに声をかけてくれてありがとう。)                  ◇お母さんへのエールの拍手 (赤ちゃんは泣くものだよ。遠慮なく乗って行って。)                  ◇赤ちゃんへのエールの拍手 (バスの中は暑かったろう。)                  ◇乗客の一人として感動の拍手</p> <p style="text-align: center;"><b>KJ法を使った話し合いの工夫</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     一緒に乗って行って お母さん困ってる お母さんへの拍手 お母さん頑張れよ 困って どうでもいい 何かあったの                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     赤ちゃんへ 赤ちゃんが泣いたね、泣いていいよ。 お母さんの気遣いへの拍手 最初の拍手につられて                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     運転手さんナイス 運転手さん、素敵な行動ありがとう すごい! 私もそう思っていた。 運転手さんは相手の気持ちを考える人です。                 </div> </div> <p>自己との対話 他者との対話 新たな視点での対話</p>
	終末

### 授業づくりの手順

#### Research

内容項目をもとに児童生徒の実態把握を行う

#### Plan

教材を吟味し、授業のねらいと展開を考える

#### ねらいを考える

#### 中心的な発問を考える

#### 中心的な発問の前後の発問を考える

#### Do

児童生徒の実態やねらいに合った学習活動を考える


#### Check

ねらいの中の学習活動に関係する部分を評価の視点にする

- 【評価の視点1】 お母さん、運転手、乗客のそれぞれの思いについて、考えたり話し合ったりしている。(方法：発言・シート)
- 【評価の視点2】 人と人が互いを思いやる心の素晴らしさを自分事として捉え、書いたり伝え合ったりしている。(方法：発言・シート)



## 授業を充実させるために

道徳科授業づくり手順のポイント 

1	学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）の <b>内容項目のページで道徳的価値の確認</b> をします。
2	道徳的価値についてどのようなことを指導するのか理解するために、 <b>内容項目の概要や指導の要点を確認</b> します。
3	道徳的価値について、 <b>児童生徒のよさや課題を確認し、本時で考えさせたいこと</b> を決めます。
4	教材を読みながら、 <b>本時で考えさせたいことが教材のどこに含まれるか</b> を考えます（教材吟味）。
5	<b>本時のねらい</b> を決定します。
6	<b>中心的な発問</b> を考えます。
7	中心的な発問の <b>前後の発問</b> を考えます。
8	<b>学習活動</b> （導入、話し合い、書く活動、表現活動、板書、ICTの活用等）の工夫について考えます。
9	ねらいをもとに <b>評価の視点</b> を考えます。



授業の準備はできましたか。  
子供たちと道徳科の授業を楽しみましょう。

MEMO

Lined writing area with horizontal lines.

MEMO

Lined writing area with horizontal lines.